

恵那市公立こども園での I C T 導入の取り組み

恵那市教育委員会 幼児教育課

1 はじめに

恵那市の公立こども園は定員 20 人の園から定員 240 人の園まで規模は幅広く、各地域に1園を基本として市内に14の園があります。平成27年度からは公立園全てを認定こども園化し、教育・保育に取り組んでいます。

こども園での園務では、園児の記録や保護者への連絡やお便りなどはこれまで手書きで管理しているものも多く、種類も多岐にわたっています。

またコロナ禍の中、保育教諭等の実地研修が中止され、保育技能の向上の機会が減少するなど苦勞をしながら園務にあたってきました。加えて、慢性的な人手不足や業務量の多さなど保育教諭を取り巻く環境は大変厳しい状況となっています。

こうした課題を解決するため、令和4年度よりICTを活用し教育・保育の質の向上や保護者の満足度向上につなげようと取り組んできました。以下、その概要について紹介させていただきます。

2 こども園 I C T 化事業の概要

全ての保育室で Wi-Fi が使える環境整備を行い、各クラスに 1 台のタブレット端末等の機器を配備し、保育業務を効率的に行うシステムを導入しました。システムの主な機能は、以下のとおりです。

- ①園児に関すること(登降園管理、園児の個別記録、保育支援アプリなど)
- ②保護者に関すること(アプリによる欠席連絡、登降園打刻管理、成長の記録など)
- ③職員に関すること(指導案、日誌作成など)

また保育のツールとして教材アプリもあわせて導入し、園行事の際に使用しています。

3 具体的な取り組み

(1)保育業務支援システムの例

○登降園管理

園児の登降園管理を園の入り口に設置した二次元コードリーダーで行います。保護者は自身のスマートフォンや二次元コードを印刷したカードをかざすことで登園・降園の登録を行います。打刻時間は出席簿に反映されます。

▼設置された二次元コードリーダー



▼カードをかざす様子



○保護者とのコミュニケーション

園からのお知らせ(園だよりや緊急のお知らせなど)を配信します。保護者はスマートフォンで内容を確認することができ、園では既読確認を行うことができます。

また、欠席の連絡についてもスマートフォンアプリを通じて行うことができます。保護者からは、園が開いていない時間でも入力できることなどから好評を得ています。

○保育業務

指導計画などの書類をデジタル管理できるようシステムの活用を行っています。日常的には午睡チェックもタブレットで記録しています。

○保育教材アプリ

園児が描いた絵をカメラで取り込み、その画像が動くアプリを導入しています。

(2)保育中の使用例

クッキングでは、先生の手元をタブレットで撮影。これまでは、覗き込んで見ていたものが大型モニターで見ることができ子どもたちは興味津々。



4 今後の取り組みと課題

令和5年4月から本格稼働したICT化では、市内公立こども園での一斉導入であり、現場の負担感をやわらげるため、登降園管理や保護者へのお知らせ配信、午睡チェックの記録などスマートフォンスタートとしました。今後は、指導計画や要録などを本格的にペーパーレス化することと、保育教材アプリのコンテンツを豊富にして、様々な場面で利用していくことに取り組んでいきます。

これまでの取り組みから、ICT機器の導入は一斉にできますが、それを使う保育教諭のスキルの足並みが揃わないことや、園により活用度合いに差ができてしまうことがあります。

これらの課題を解決していくため、共通課題について情報共有し、より良い活用ができるよう各園の保育教諭で組織する「保育ICT活用推進委員会」を設置しました。今後は、この委員会を中心に全ての保育教諭が日常的に情報交換しながら日々の保育の中でICTの力を目一杯活用できるよう進めていくこととしています。